

事務事業名	食育事業
-------	------

区分	No	名称
章	1	やさしさと共生するまち
節	2	市民一人ひとりが生涯を通じて健康に暮らせるまちをつくる
施策	1	市民の主体的な健康づくり意識の確立
小分類	1	健康づくり運動の推進
主要な施策	2	食を通じた健康づくりの推進
事務事業番号	003	事業開始年度 平成 22 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	保健福祉部	グループ名	健康推進グループ
-----	-------	-------	----------

事務事業の概要 《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	子育て世代等を対象に食育指導を行うことにより、食生活習慣の大切さを啓発し、生活習慣病の予防を図ることを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成23年度の実績を具体的に記入してください)
	乳幼児期の子を持つ母親や学童期の親子等を対象に、食に関する講話や調理実習、また、試食や親同士の交流などを通し日ごろの食生活の悩みに応える栄養相談・栄養教室を実施した。 【事業実績】 ・もぐもぐ食育広場 年3回実施 参加数62人 ・へるしー講座 年4回実施 参加数46人 ・食育親子料理教室 年4回実施 参加数42人
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	食習慣の基礎が確立する時期において、適切な栄養の知識や調理方法を知ることが、将来にわたる健康づくり、生活習慣病予防につながることから事業を推進する。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	母子保健法・健康増進法

事業費（財源内訳）の推移 《Plan・Do》

区分		単位	H22年度 決算	H23年度 決算	H24年度 当初予算	H25年度 見込	H26年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円	14	12	12	12	12
一般財源	名称	千円	138	221	348	348	348
事業費 合計			152	233	360	360	360

指標の推移 《Check》

区分		単位	区分	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	もぐもぐ食育広場	人	目標値	45	75	100	100	100
			実績値	29	62			
	へるしー講座	回	目標値	3	3	3	3	3
			実績値	5	4			

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
<p>・もぐもぐ食育広場について、現在、4か月ごと年3回実施しているが、月齢でタイムリーに参加できない対象がいる。</p>	<p>・現在の回数3回を4回に増加してタイムリーに支援できるように対応していく。</p>	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について		
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見 母子保健法・健康増進法より、市民が健康な食生活を過ごすために、市は市民の健康づくりを推進していく役割があることから委託できる事業ではない。
	民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である	
	国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について		
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見 乳幼児を持つ母親からの食生活の悩み(食事のリズム・偏食・小食等)が日ごろ聞かれることから、事業を推進していく必要がある。
	市民アンケートの結果から必要性が高い	
	社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について		
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見 事業を行う上で必要最小限のコストとして実施しており効果をあげている。
	市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について		
目的を達成するための成果はあがっていますか？	成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見 事業に参加したことで家族全員の食生活の見直しと改善のきっかけとなっている。その後も機会あるごとに適切な食生活を送れるように継続して支援している。
	市民、団体等の声から成果を感じられる	
	目に見える形で成果があがっている	
	成果の把握は困難である	

担当グループによる評価 《Check》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	定期的な食生活習慣の基礎が確立される乳児期から、子育て中の世代に支援することは、家族全員の食生活の見直しへ波及し家族全員の健康づくりにもつながることから継続していくは必要である。
----	----------------------	---

行政評価会議による評価 《Check》

維持	備考
----	----